

<森のクイズラリー> 問題&解説シート 2025 年度冬版

A

Q. この丸太を見てみましょう。丸太に空いている穴は、キツツキのなかま「アカゲラ」が作った巣です。ふれあいセンター近くの森でもよく見つかるキツツキの巣穴。次のうち、キツツキが「巣を作りたがらないもの」はどれでしょう？

- ① 枯れ木 ② 生きている木 ③ 木の建物 ④ 木の電柱

【こたえ】②生きている木

頑丈なクチバシと強い首の筋肉で木に穴を空けるキツツキですが、それでも「生きている木」は硬いようで、あまり巣を作ることはありません。また、人が建物や電柱として使っている木材もキツツキには「枯れ木」に見えるようで、ふれあいセンターの天井近くの外壁もつつかれたことがあります。この近くでもキツツキ穴の空いた建物や電柱が見つかりますので、気になった方はぜひレンジャーに聞いてみてくださいね。

B

Q. 冬の間に、木々は新しい葉っぱや花の準備として、「冬芽」をつくります。クイズラリーをまわりながら冬芽を見つけて、お気に入りの冬芽を絵に描いてみましょう！

【こたえ】冬芽が見つけれたら OK！

寒くなると、私たちの肌もカサカサと乾燥してハンドクリームを塗ったり厚着になったりしますよね。冬芽もそんな冬の厳しい気候に備えるための対策をしています。毛皮のようにふわふわしているものやネバネバした粘液に包まれているものなどその工夫は様々です。木の種類によって、面白い個性がたくさん見つかりますよ！

C

Q. この看板の隣にあるのはモミの木です。枝先を見ると、丸い芽にうっすらと白い粉が付いているのが分かるでしょうか。この白い粉はなんのためにあるのでしょうか？

- ① 乾燥させないため ② 虫に食べられないようにするため ③ 病気から守るため

【こたえ】①②③すべて正解！

モミの芽に付いているこの粉は木が出している脂で、「ヤニ」とよばれることもあります。モミやマツなど、葉が細く尖った針葉樹は幹や葉にヤニをたくわえていて、それで乾燥を防いだり、虫や病気から身を守ったりしています。ヤニは人の暮らしにも使われていて、スポーツやバイオリンの弦の滑り止めになる松ヤニは有名でしょう。また、モミのヤニにはいい香りがあり、枝葉をエアフレッシュナーやハンドクリームに利用することもできます。

D

Q. ハケ岳にもすんでいる天然記念物の動物、ヤマネ。冬は地面の下や枯れ木の中で冬眠しています。今の「地上」と「地下」で温度に違いはあるのでしょうか？
看板についている温度計、地下につながっているパイプの中の温度計でそれぞれ温度を測ってみましょう。

【こたえ】地上と地下それぞれの温度が測れたら OK！

寒い日には気温が -10°C を下回る日もある清里。そんな地上に比べて、地下は暖かく、また昼と夜の温度差が少ないという特徴があります。そしてヤマネは、気温が 9°C くらいになると冬眠を始め、逆に -7°C より寒くなると目を覚まして眠る場所を替えることが分かっています。そのため、ヤマネは一日中温度が 0°C くらいで安定している地面の下や朽木の中を選ぶようで、自身も体温を 0°C 近くまで下げてじっと春まで眠りにについています。

E

Q. この下にある板をそっと持ち上げてみましょう。土にできた穴のようなへこみが見えるでしょうか。これは誰が作ったのでしょうか？

①ネズミ ②モグラ ③ヘビ ④セミの幼虫

【こたえ】②モグラ（③はモグラの天敵、④はモグラの獲物）

この穴を作った正体はモグラです。冬でも冬眠をせず、地下の温度が安定しているところで生活しています。トンネルは生き物を捕まえるトラップにもなっていて、目がほとんど見えない代わりに鼻・耳・ヒゲの感覚で獲物を感じ取ります。そして1日で自分の体重の半分の量のミミズや虫を食べています。人間に例えると30kgの人がおよそご飯を100杯分も食べていることになります！また、モグラが使い終わったトンネルにはネズミが棲みつくこともあります。